社会医療法人社団 木下会
館山病院

館山病院の理念

〝生命だけは平等だ〟を基本理念とし、
「生命を安心して預けられる病院」
「健康と生活を守る病院」を目指します

Vol.4 2019年 1月
館山病院広報誌
発行：社会医療法人社団木下会 館山病院
〒294-0037 千葉県館山市長須賀 196
TEL.0470-22-1122（代）
制作：館山病院 広報委員会
タテマガ編集室（内線 725）

Tateyama Hospital Magazine

CONTENTS

Cover 新年のごあいさつ 館山病院 院長
②③ 新年のごあいさつ
④ 《タテマガNEWS》着任のごあいさつ/チャレンジ感動in館山
医療安全の取り組み
⑤ 《タテマガNEWS》徳州新聞院長記事/新病院紹介/
新病院キックオフMTG/《連載》朝礼スピーチ
⑥ 《特集》NST（栄養サポートチーム）看護師編
⑦ 医療講座 Close-up
⑧ information

新年のごあいさつ　館山病院 院長　竹内　信一

平成最後の年頭にあたり、院長として一言挨拶を述べさせていただきます。
今年は平成最後の年（次の年号は何になるのでしょうか？）、干支は十二番目の猪です。猪は猪突猛進という成句があるほど突進力が強い反面、犬と同じくらい鼻が敏感で神経質な動物でもあります。現在は、農作物に対する被害などで嫌われ者ですが、古来、神使（神仏のお使い）とされ、猪突猛進というほどその迅速で素早い動きが特別なもの（尋常でないもの）に感じられたから干支のひとつになっているのです。
一方館山病院について一年を振り返ってみますと、今年 3 月の日本病院評価機構の受審準備で慌ただしく、また、新病院新築移転については昨年 11 月 2 日に設計業者が決まり、12 月 13 日には新病院移転新築工事、設計管理業務、設計キックオフミーティングが開催されいよいよ現実的なものとして実感されます。
そして、館山病院にとって大きな出来事は、病院の魂であり、職員の支えでもあった加藤　尚子看護部長が闘病生活の末に亡くなったことです。新病院新築移転は看護部長の悲願であり、夢であることを皆さん決して忘れないでください。
今年は猪年にちなんで職員一同一丸となって猪突猛進という思いで、日本病院機能評価機構の審査合格はもちろんのこと、新病院新築移転の現実的な第一歩となる基本設計に向け、邁進していこうではありませんか。
二兎を追うものは何とやらということわざはありますが、一方、〝精神一到何事か成らざらん〟という精神もあることを忘れずに、夢の実現へ向けて頑張っていきましょう。

新年のごあいさつ

館山病院 副院長
佐藤　猛（さとう　たけし）

輝かしい初春を迎え皆様のご清福をお祈り申しあげます。
いよいよ本年館山病院は、新築移転の件で本格的に始動となりました。昨年12月13日に新築移転にあたり、設計のキックオフミーテイングが開催されました。
新病院建築スケジュールによれば、2022年春に新規オープンの予定となります。オープンまで３年２か月だと説明があり、私にとってはまだ先の話かと思いましたが、設計が開始し、工事から完成までの期間は、設計担当者に言わせるとあっという間に過ぎてしまうそうです。そう考えると、竹内院長を筆頭に職員の責任は重大であり、本当に気を引き締めて館山病院の今後のありかたを考えていかないと、新・館山病院は以前よりきれいになっただけで何も地域に貢献できない病院となってしまいます。そうならないために、まず、私たちは新築移転に向かいどのような病院を作りあげていくかを考え、新・館山病院を実現する５つのコンセプトを掲げました。

①「中規模」「地域密着型」「ケアミックス」病院として、機動力を発揮できる病院
②リハビリテーションを核として、「急性期・回復期・慢性期医療の診療体制の整備
　外科（整形・脳外科・泌尿器）の外科対応を強化し二次救急医療の信頼の構築
③災害時に対応できる病院
④病院と在宅医療、介護との関係強化
⑤優秀な人材採用と地域の人材育成に貢献できる病院

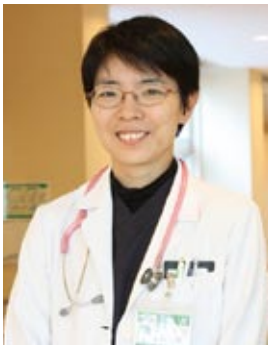
私たちは、このコンセプトに思いを込め未来へ向かい、地域に根ざした病院を目指します。職員一同が一丸となって新しい病院を作りましょう。今年から大変忙しい年が続きそうですが、今の安房地域が今後過疎地にならないように、夢があり子孫が元気に安心して働ける環境を創出しましょう。病院に係る職員の皆様、ストレスがたまらないように楽しみながら頑張っていきましょう。

館山病院 脳神経外科
菅沼　康雄（すがぬま　やすお）

平成は明治以後初めて対外戦争のない時代でした。経済的には後退・停滞に終始しました。医療の面では、超高齢者社会に踏み込みました。新しい年号の時代は高齢化に少子化進行が加わり東京以外の人口減少が加速するでしょう。ここ館山も高齢者の比率が急増し、医療・介護の需要が増加することで、リハビリテーション（以下リハビリ）の必要性も高まります。館山病院では急性期、回復期、維持期の入院、通院、通所、訪問リハビリを進めてきました。リハビリに関与する人たちは患者様とそのご家族が中心ですが、医師、療法士（PT、OT、ST）、看護師、放射線技師、検査技師、栄養士、歯科医師、歯科衛生士、ケースワーカー、事務員、運転関係者、その他病院職員、勤務先、市役所、警察署、その他医療・介護・福祉関係の方々等に及びます。ご協力、ご活躍に感謝申し上げます。館山病院の新築移転時には、介護施設を併設するため、リハビリはより多くの場面に関与できることになります。今後はリハビリの技術向上に努めて、障害の改善度を高め、機能と役割を拡大する地域包括支援センターと協同して、より多くの障害者のADLを改善、人生の満足度を高めることができるよう、努力したいと思っています。

館山病院 内科部長
杉村　大作（すぎむら　だいさく）

年は「亥年」ということで、私自身は「年男」であります。
「人生一巡り」で、節目となる新しい門出の年となります。
新たにリセットする気持ちで、地域の方に寄り添う「地域医療」に携わり、皆様のお力となれるよう日々精進してまいりたいと思います。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

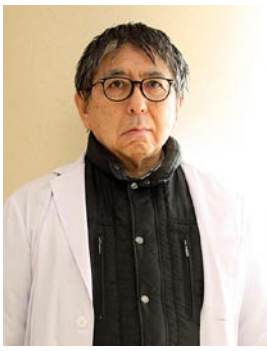


館山病院 内科
能重　美穂（のうじゅう　みほ）

内科を担当しております能重と申します。館山病院に来て４年目になります。
もともとは千葉県北東部にある東庄町という小さな町の出身です。そこには子供のころから家族でお世話になっていたお医者さんがいましたが、その先生のように家族全員、子供からおじいちゃんおばあちゃんまで、地域や家庭の問題も含めてまるごと診られるようなお医者さんになりたいと医師を志しました。地域医療を担う医師を育てる自治医科大学で勉強し、卒業後は当時の富山国保病院や鋸南病院といった地域の病院で勤務してまいりました。館山・南房総地域は高齢人口比率が高く、外来や入院の患者様もご高齢の方が多いのが特徴です。からだの症状だけでなく、ご家庭の環境や地域のサポートなどといった様々な問題を一緒に考慮していく必要があります。治療を進める中で、悩ましいことが出てくるかもしれませんが、そういったときは遠慮せずにご相談いただければと思います。家に帰ると、３人の息子たちのお母さんとして毎日にぎやかに過ごしています。館山の街で会うこともあると思いますので、気軽に声をお掛けください。
本年もよろしくお願いいたします。

館山病院 歯科口腔外科
西尾　可苗（にしお　かなえ）

昨年は私たち歯科口腔外科では診療報酬改定に伴い、大きな変革をもたらしました。外来環の算定や、「口腔機能低下症」の新設により、歯科医でも摂食嚥下機能の低下した患者様に対して診査・診断できるようになりました。当科では「ペコパンダ」による舌のリハビリテーションを開始いたしました。飲み込めたり、食べれるようになって喜ぶ患者様の笑顔がみれて大変嬉しく思っております。また昨年度より当科でもいよいよインプラント治療が開始いたしました。本年度は、症例数を増やしつつ、頑張っていこうと考えております。また、肺炎パスで介入させていただいております口腔ケアもその重要性について広く啓発していきたいと考えております。本年もよろしくお願いいたします。



館山病院 内科
関　紀夫（せき　のりお）

今回はこの場をお借りして私のことをお話ししたいと思います。生まれは宮崎県の宮崎市です。出身大学は宮崎大学です。宮崎に３年間おりましたが、ずっと同じ場所にいるのもどうかと思い、友人を介し琉球大学に行き、４年間沖縄におりました。その後、福岡の民間病院で10年間働きました。その後は長崎北徳洲会病院で３年間働いておりましたが、「千葉県にこんな病院があるよ」と紹介され、働き始めて５年になります。館山には両親と一緒に来ましたが、数年前に父が他界し、母は宮崎の施設に入所しています。私は単身赴任となりました。１人で暮らすのも自由で良いなと思うようになりましたが、正月に宮崎に帰り、家族と会うのも楽しみです。今年もよろしくお願いいたします。

館山病院 副看護部長
家守　絹枝（やもり　きぬえ）

新年を迎え今年こそ○○をしようと新たな目標を立てた方もいるのではないでしょうか。ですが､途中で挫折してしまう方も多いように思います。私もその一人と言えます。しかし､皆様もご存じの通り、当院には途中で投げ出せない大きな計画が２つあります。ひとつは病院機能評価受審、ふたつめは病院新築移転です。病院機能評価においてはマニュアルの見直し、修正、作成、委員会の規約、環境整備、改善、評価とやるべきことがたくさんあり、職員の方々は日々の業務を行いながらで大変だと思います。また、昨年12月13日には移転新築工事の設計キックオフミーティングが開催され、着工までの計画の説明がありました。期待するとともに、大きな不安と責任感を感じました。昨年12月１日病院の大きな柱でもある加藤看護部長が亡くなられました。部長は常々「地域の為、患者さんの為、職員の為に新しい病院に建て替え軌道に乗せ、次世代にバトンタッチすることが私の最後の仕事」と言い、志半ばにして亡くなられました。新病院の基本コンセプトのひとつ〝中規模、地域密着型、ケアミックス病院とし機動力を発揮できる病院〟このコンセプトは部長の思いでもあります。館山病院は地域にとってなくてはならない病院です。患者さんやご家族にとって安心していただける病院を目指さなければなりません。勿論、職員にとっても働きやすい環境も整えていく必要があります。説明会で基本設計の７か月間が最も重要だとお話がありました。2022年春､新病院オープンに向かって走り出しました。もう後戻りはできません。職員一丸となって頑張りましょう。

館山病院 事務長
田村　秀禎（たむら　ひでただ）

前任の阿曽事務長より、今年から事務責任者業務を引き継ぎ、お役目を果たしてまいります。明治24年に館山市に設立されました館山病院は、平成30年に新築移転が正式に決定し、今まさに新病院元年という心構えで職員一同新病院構想に取り組み、いよいよ今年は現実の形として作り上げる段階にまでまいりました。今これが行えますのも偏に館山病院創設よりお関わりになられましたすべての方々のおかげに他なりません。これからも変わることなく、市民の皆様が望まれます地域医療にしっかりと貢献できる館山病院の新たな一歩を皆様と共に、また、昨年末に新病院建設の志半ばで亡くなられました加藤看護部長の思いも胸に進めていければと存じております。本年も館山病院をどうぞよろしくお願いいたします。

前館山病院 看護部長 加藤　尚子は、病気療養中のところ平成 30 年 12 月 1 日満 64 歳にて生涯を終えました。37 年間、館山病院に誠心誠意全てを捧げてこられた姿を、職員一同胸に刻み、加藤看護部長の遺志を受け継いでまいります。生前に賜わりましたご厚誼に対し 職員一同 心から御礼申し上げます。略儀ながら誌上をもってお知らせ申し上げます。

看護部長着任のごあいさつ

館山病院 看護部長
辰澤　智恵
（たつざわ　ちえ）

【経　　歴】

1993年4月～1998年3月	日本医科大学付属病院
1998年4月～	千葉西総合病院
2002年12月	看護副主任
2004年1月	看護主任
2005年7月	看護師長
2012年4月	副看護部長
2018年6月	大日徳洲会病院

【出　　身】　東京都
【趣　　味】　旅行

1月より新しく館山病院の一員となりました

～今後とも皆さまの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます～

このたび看護部長を務めさせていただくことになりました。看護学校卒業後、大学病院に 5 年、その後地元にあります千葉県松戸市の社会医療法人社団 木下会 千葉西総合病院に 20 年間勤務してまいりました。平成から年号が変わる年に、館山病院で新たなスタートをきることになりました。館山病院は、歴史ある病院で地域医療に貢献するために生まれた病院です。私の使命は、新築移転という大きな目標に向かって、前看護部長の思いを継承し、さらに地域の方に頼られる病院を作ること、また人を育て「看護の質の向上」を図り、安心して療養できる看護体制を作っていくことだと考えております。まだまだ未熟者でございますが、皆様のお力をかりて精進してまいります。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2018 チャレンジ感動 in 館山

房南学園２年生
男子２名　女子１名

館山病院は医療を目指すあなたを今後も応援します

～参加いただいた生徒様の感想、講師のレポートをご紹介します～

10/30（火）、職種：看護師　担当：Ⅰ号館 看護主任 須田　美穂子（すだ　みほこ）

最初に、病棟内を案内しましたが、初めて入るナースステーションに、緊張している様子でした。また、電子カルテで患者さんの記録や情報共有を行っていることを説明しました。その後、生徒同士で血圧測定を行い、慣れない手つきながらも、聴診器を耳に当て、血圧を測ることができました。車いすの試乗では、扱い方や注意点などを説明しました。最後に、患者さんと一緒に塗り絵をしながらコミュニケーションを図り、患者さんからの声掛けに緊張しながら答えていました。今の段階では、将来なりたい職業は決まってないと話していましたが、今回の職場体験で自分の将来の夢や希望を見つけ、何かを目指すきっかけになれたらいいと思います。

10/31（水）職種：療法士　担当：療法科 作業療法士 松田　理恵（まつだ　りえ）

理学療法・作業療法・言語聴覚療法・通所リハビリテーションの臨床場面を見学・体験しました。それぞれの資格について紹介し、リハビリテーションを身近に感じてもらえるよう、見学の中で患者さんと会話をする機会や、患者さんと同じプログラムを体験しました。最初は緊張してなかなか会話が続かない様子でしたが、徐々に笑顔も見られ、リハビリテーションプログラムの体験では「難しい」「大変だね」「頑張って」等、生徒同士で声を掛け合いながら行ないました。今後、将来の職業を選択する時に体験を思い出してもらえると嬉しいです。

10/31（水）職種：事務　担当：健診センター 事務責任者 礒川　嵩之（いそかわ　たかゆき）

健診センターでは、実際に利用者さんと同じ機材を使用して、簡単な計測体験を行いました。普段できない体験なので、有意義な時間が過ごせたのではないかと思います。館山病院は３年後に新築移転を控えています。今後もこの様な地域との繋がりを大切にして、これからの将来を担う子供達と一緒に『地域医療を支える存在』として成長していきたいと思います。また、職場体験された生徒さんが『将来、館山病院で働きたい』と思っていただけるように日々、精進していきたいと思います。

当院における医療安全の取り組み

医療安全対策地域連携に伴うラウンドを開催しました

概要：2018年11月29日（木）13:30~16:20 ※ディスカッションおよび院内ラウンド
ラウンド場所：一般病棟、外来部門（救急）、手術室、薬剤部、放射線科、検査科、透析センター

医療安全対策の現状を病院間でチェックし、意見交換および評価を実施し、医療安全対策の標準化推進や、医療安全の質の向上を図ることを目的として行われています。当院では徳洲会グループ内で相互ラウンドを実施していますが、今回は、近隣の医療機関である安房地域医療センターさんにチェックを行っていただきました。病院機能評価の視点でもアドバイスをいただき、大変参考になりました。改善に向けた参考とするため、当院からも見学に伺わせていただく予定です。

総評の様子

医療安全管理者就任のごあいさつ

Ⅰ号館 看護主任 **林　由章**（はやし　よしあき）

2017年1月より、リスクマネージャー委員として活動してまいりましたが、2018年12月より医療安全管理者を勤めることになりました。病棟での仕事内容から一変しましたが、新たな業務に早く慣れ、微力ですが、患者様や職員の安全に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。医療安全は、職員だけではなく患者さんの協力が不可欠となります。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

徳洲新聞～院長記事紹介～ / 新病院建設に向けキックオフ

徳洲新聞
2018年10月2日発行No.1157の「離島・へき地医療特集」コーナーに竹内院長の記事が掲載されました。
徳洲新聞とは、全国の徳洲会グループの医療機関での取組みを内外に発信する情報誌です。毎週月曜日に新刊を当院総合受付前のフリースペースに設置しておりますので、ご自由にお取り下さい。

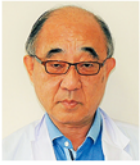
2022年 春国道127号 館山バイパス沿いにオープン 新病院外観イメージ

2018年12月13日（木）、新病院新築移転工事に向け、第１回キックオフ MTGが開催された。各エリアの部門別メンバーが集まり今後のスケジュール等を確認し、約７か月間の基本設計に向けスタートを切った。

離島・へき地医療特集

館山病院

新病院で医療観光も
新築移転計画スタート



「医療圏の特性に合わせ、地域に貢献したい」と竹内院長

東京から高速バスで約2時間。房総半島南部に位置する千葉県館山市にあるのが館山病院だ。同市は風光明媚な海景と温暖な気候が特徴だ。

同市の人口は、2017年10月1日時点で4万7467人と微減傾向。一方、高齢化率は年々上昇し、同時点で37・9％。地区によっては50％を超える。

同院は老朽化により建て替えが課題となっていたが、移転先の土地が決定し、21年度の竣工予定で新築移転計画がスタート。立地は現病院から北東方向に直線距離で約1.5kmの幹線道路沿いだ。

「医療圏の特性に合わせた病院とし、地域医療に貢献していきたい」と意気込みを見せる竹内信一院長は、新病院に関し5つのコンセプトを掲げている。①中規模、地域密着型、ケアミックスの病院とし機動力を発揮、②リハビリテーションを核とし急性期・回復期・慢性期の診療体制を整え、外科系診療科の手術対応を強化、③災害対応できる病院、④在宅医療や介護との関係強化、⑤優秀な人材の採用と地域の人材育成に貢献。

館山湾に面する館山市の街並み

館山市は温暖で豊かな自然に囲まれ、療養環境としても恵まれていることから、地の利を生かし「メディカルペニンシュラ（半島の病院）」として、メディカルツーリズム（医療観光）も推進していきたい考え。たとえば、地域の旅館などとタイアップし、房総エリアの観光を楽しみながら館山病院で人間ドックを受け、健康管理に役立ててもらおうという構想だ。

病診連携に関してはすでに、診療所から急変患者さんを受け入れたり、在宅患者さんのレスパイト（介護者の休息）目的の入院を受け入れたりするなど、地域のニーズに応じた機能を提供。検査目的の紹介もコンスタントにあり、9月はCT（コンピュータ断層撮影）38件、MRI（磁気共鳴画像診断）65件と、毎月計100件ほどに上る。

朝礼スピーチ

毎週火・木曜の朝8:30から朝礼があり、木曜はスピーチを行っています。現場を離れられない職員もいますが、できるだけ出るというルールになっています。部署の代表者が、医療に関することから自身の趣味まで自由なテーマでスピーチを述べます。その一部をご紹介します。

Q&A　①出身地　②趣味・特技
④好きな言葉と理由

看護部
Ⅲ号館２階
看護師
金綱　亮輔
（かねつな　りょうすけ）

①千葉県夷隅市　②バイク(大型二輪)現在は未所有、またいつか乗りたいです　③「慣れてないだけ」看護学校で恩師に教わった言葉です社会人でも適応できる自信になりました。

先日、加藤看護部長のお通夜に参列させていただきました。
まだ看護師２年目の私は、みなさんよりもお付き合いした時間がとても短い間ではありましたが、それでもその期間、看護部長には大変お世話になってきました。とくに看護部長との印象的だったエピソードがあります。安房医療福祉専門学校で一期生だった私は、館山病院を卒業後の進路として志望し、学生の頃から折り入っては何度もご挨拶に伺いました。その度に対応していただいたのが、加藤看護部長と総務課の加藤さんでした。後から聞いた話ですが、当時の学校長より、加藤看護部長は一期生からの就職志望者を大変喜んでいただいたとお聞きしたことがあります。就職後も、看護の仕事に慣れず悩んでいた自分や同期に対して、親身に、そしてアサーティブにご自身の時間を割いては話しを聞いていただきました。時には、病院のブログに一年生の話として、実習生とのことを取り上げ、影ながらも応援してくださいました。あの時間が無かったら、こうして看護師を続けていられなかったかもしれません。そのくらい尊い時間を、ご自身のお身体を押しても寄り添っていただいたことに今は感謝しかありません。加藤看護部長とは、看護や看護感について、ご本人のお考えを深く聞くほど深くお話しさせていただいていませんが、これからも看護師として、その一端を担っていければと思います。

特集

Nutrition Support Team
（栄養サポートチーム）看護師編

NST って？

当院の委員会のひとつにＮＳＴ（栄養サポートチーム）というものがあります。医師、看護師、栄養士、薬剤師、歯科部門、療法士、検査技師などの多職種で構成されています。入院患者さんの病気を含めた、栄養状態の維持や改善を目的として活動しています。

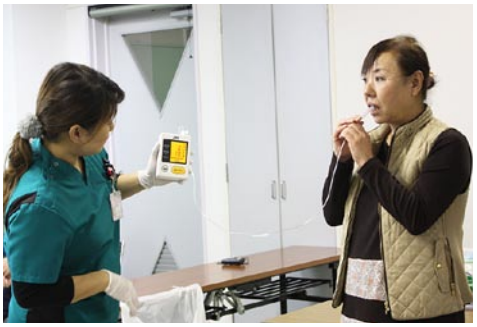
構成メンバーで昼食の摂取状況を見て問題点や改善方法を検討する。

身近にいる看護師だからできること

Ⅲ号館２階 看護師
野口　絵美
（のぐち　えみ）

①私は数年前まで、主治医や言語療法士が食事に関して指示することが、すべて正しいと思っていました。しかし５年前に病院で取り組んだ看護研究をきっかけに、毎日身近にいる看護師ができることがもっとあるのではないかと考えが変わりました。そして、高齢の認知症であまり食べられない患者さんの食事を「無理だろう」とあきらめかけた時「この人は家族の方には多く話すので、何が食べたいか家族に嗜好を聞いてもらおう」と考えました。「ムセが１回あったので、二口目で食事中止しました」と聞いたときは、（どんな体の位置で覚醒はしっかりしていたのか）（一口の量はどうだったのか）と何が本当の問題点で、解決させるにはどんな方法があるのか看護師だから見て、知れて、すぐに実践できることをやっていこうと毎日の仕事に対する意識や行動も変わっていきました。個人的に食事の研修会への参加、新しい知識や技術の吸収もし、患者さんの「おいしい」という一言が今まで以上にうれしく感じるようになりました。一番近くで接する看護師だからできることを、継続していきたいです。

②ＮＳＴの構成メンバーになり、５年前から食事や口の中の環境に強く意識が向くようになりました。飲み込みの悪い患者さんの水分には、トロミをつけて提供します。それにより、肺に間違って食事が流れ込んでしまう誤嚥が、100％ではないですが起きにくくなります。今まで１回むせたからとトロミを強くつけることも多く、実際の食事では、介助者が飲み込みやすいようにと、口の奥にスプーンを入れていました。そこで、口の動きから口の手前にスプーンを入れるとむせなくなりました。また、入れ歯を付ければ、硬いものが食べられるようになるのに、装着を嫌がる方がいました。歯科と協力して、口の中をみると歯槽膿漏で痛みがあったのが原因でした。しっかり歯科の治療を行い入れ歯が装着できるようになると、普通食が食べられるようになり、在宅での介護も受けられることになり、笑顔で退院されました。２つの事例は食事の知識や観察の不足により思い込みでみていると、トロミの強いドロドロの食事でおいしさを感じにくくなり、入れ歯を付けられないため、柔らかいものだけの食事になるなど、結果口の機能が低下していくことが予測されるものでした。



職員研修にて歯科職員が舌圧測定のデモを行う。「低舌圧」は口腔機能低下症の診断基準のひとつになる。

頼れる栄養サポートチームになる！！

現在、ＮＳＴ（栄養サポートチーム）では毎年、毎月単位で活動内容を振り返っています。そして、会議室や病棟での話し合いだけではなく、現在は患者さんの食事場面へ直接出向いていくなど活動範囲を広げています。院内で研修も開き、病院全体で職員の知識や技術の向上を図ろうと取り組んでいます。〝食べる〟ということは、入院生活の中でそして年齢を重ねていく中で唯一の楽しみであり生きがいです。ＮＳＴ含め、地域に根ざした館山病院として一人一人の患者さんの〝食〟について向き合い続けて頼りになる存在を目指していきます。

職員研修にて食事摂取における体勢の実技を学ぶ。

医療講座
close-up

11月～12月の医療講座

医療講座参加者は 394 名でした。ご参加くださいました皆さまありがとうございました。

11/9（金） リフレッシュ教室（湊老人福祉センター） 担当：療法科 町田氏
9（金） 肺炎予防について（みやぎの郷） 担当：療法科 大浦氏※職員研修
13（火） 転倒予防教室（びわの郷） 担当：療法科 海瀬・小川・早川氏
14（水） 生き生き教室（館山地区公民館） 担当：療法科 佐久間・河辺氏
14（水） 結核、インフルエンザについて（アイリスの里） 担当：看護部 杉田氏※職員研修
15（木） 肺炎予防について（館山特別養護老人ホーム） 担当：療法科 大浦氏
17（土） 正しい感染対策で冬を元気に過ごそう（イオンタウン館山） 担当：看護部 杉田氏
21（水） いつまでも自分の足で歩くために～ロコモ測定とトレーニング方法～（富崎公民館） 担当：療法科 中村・磯貝・山口氏
26（月） 健康づくり体操（菜の花ホール） 担当：療法科 佐藤・橋本・松田氏
27（火） 安房失語症友の会「菜の花会」紅葉狩り（小松寺等） 担当：療法科 松田氏
30（金） インフルエンザの予防について（認知症カフェつむぎ） 担当：看護部 杉田氏

12/3（月） 感染性胃腸炎について、嘔吐処理演習（勝山学園） 担当：看護部 杉田氏※職員研修
6（木） 看取りについて（ポピー） 担当：看護部 山口氏※職員研修
11（火） 転倒予防教室（微笑の里） 担当：療法科 海瀬・小川・早川氏
12（水） 訪問看護・介護、夜間対応型介護について（ふれあいサロンプリンセス） 担当：訪問看護ステーションたてやま 大里・鈴木氏
22（土） 検査でわかる生活習慣病について（イオンタウン館山） 担当：放射線科 苅込氏 / 検査科 小林・堀川氏
26（水） インフルエンザ、ノロウイルスについて（白浜根本集会所） 担当：看護部 杉田氏※職員研修

２ステップテストでロコモ度を測定

2018年11月21日（水）、館山市富崎公民館にて、「いつまでも自分の足で歩くために～ロコモ測定と～トレーニング方法～」と題し、館山病院 療法科 中村　慎吾 理学療法士ら３名が出張医療講座を行い、14名の方に参加いただいた。「ロコモティシンドローム」とは、運動器に障害がおこり、「立つ」「歩く」といった機能が低下している状態のことで、「ロコモ」を予防していつまでも自分の足で歩けるよう、まずはロコモ度測定を行った。その後、毎日少しずつ続けられる運動方法を紹介し、実践を行った。皆、健康への意識が高く積極的に参加いただいた。ロコモ度を知ることが、「今後の生活へ簡単な運動を取り入れる意欲となれば」と講師は話した。

2018年12月22日（土）、イオンタウン館山のコミュニティホールにて、「検査でわかる生活習慣病について」と題し医療講座を行い、40名の方に参加いただいた。講座１では、館山病院 放射線科 診療放射線技師 苅込　能宏が、CTや MRIの画像結果から見える生活習慣病を紹介。体の内部で何が起こっているのか、どのような病気なのかを症例写真に沿って説明を行った。講座２では、館山病院 検査科 臨床検査技師 堀川　友里江･小林　友紀が、主に動脈硬化や当院で行っている動脈硬化の検査について説明を行った。講座終了後に、受講者限定で無料の頸動脈エコー検査（簡易）を実施すると、熱心に結果説明を聞く様子が見られた。こちらは簡易検査のため、結果は参考程度に捉え、「心配な方は受診をお勧めします」と呼びかけた。

無料頸動脈エコー検査（簡易）

館山病院では、皆さまが、健康で豊かな生活をお過ごしいただけますよう、当院の医師やスタッフによる医療全般に関する出張医療講座を開催しております。
各種会合や研修会・町内会行事・婦人会・サークル等、地域の社会福祉活動・企業の職員研修や学校の保健教育などをお考えでしたら、ぜひ当院の出張医療講座をご活用ください。

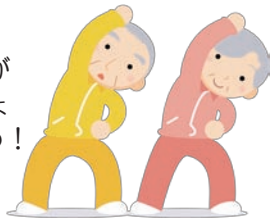
お申込みに関するお問い合わせは…地域連携課まで 0470-22-1122(代)

館山病院医療講座　時間13:30～14:30　※開場13:00　会場:イオンタウン館山コミュニティホール

1月19日(土)　冬の寒さに負けない"からだ"を作ろう

講師：館山病院 療法科 理学療法士 **町田　庄司**

全身の筋力を向上させると基礎代謝の向上や体温低下を防ぐ等、からだに良い効果が期待されます。気温が低下するこの時期こそ、楽しく体操やストレッチを行いましょう！からだを「冷やさないための知識」を身に付けて、冬を元気に乗り切りましょう！



※動きやすい服装、履物、タオル、飲み物等ご自身でご持参ください。

2月23日(土)　認知症サポーター養成講座

講師：館山病院 社会福祉士 **川名　正喬**

※講座終了後、14:30～15:00まで、介護について「相談会」を開催します。

Tateyama Hospital Gallery

～癒しの空間～
館山病院ギャラリーだより

※館山病院ギャラリーコーナーは
ドック・健診センター先渡り廊下

当院ギャラリーでは
展示作品を募集中

～1月6日(日)まで
第13回　荒野の羊会展
クリスマス・神様からの贈り物

荒野の羊会展より
～愛猫"さば"肖像～

次回の予定：第11回竹原書道会展1月8日(火)～2月8日(金)

問:0470-22-1122(代)　地域連携課
土曜日、日曜日、祝日も開館しております
(開館時間:午前9時～午後4時30分)

【外来のご案内】

ー ※休診
※予約なし
※予約制

※予約制の診療科を受診の際は、お電話にてご確認の上、予約時間までにお越しください。
総合診療以外の内科は予約制となりますので、予約時にお電話にて診療科をご確認ください。

診療科目	月			火			水			木			金			土		
	午前	午後	夕診	午前	午後	夕診	午前	午後	夕診	午前	午後	夕診	午前	午後	夕診	午前	午後	夕診
内科※予約制・総合診療			総合診療のみ			総合診療のみ			総合診療のみ			総合診療のみ			総合診療のみ			総合診療のみ
外　科	ー	ー	ー	ー	ー	ー		ー	ー		ー	ー		ー	ー		ー	ー
泌尿器科		ー	ー		ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	第②・④		ー	ー	ー	ー
精神科・心療内科			ー			ー	月1回	月1回	ー	ー	ー	ー		ー	ー			ー
整形外科			ー			ー	ー	ー	ー			ー			ー		ー	ー
脳神経外科		ー	ー		ー	ー		ー	ー		ー	ー		ー	ー		ー	ー
歯科口腔外科			ー			ー			ー			ー			ー	ー	ー	ー

【診療時間】　通常診療：午前 9:00～、午後 13:30～（土曜夕診）　夕診：17:00～（土 13:30～）
※ドック・健診のお問い合わせ及びご予約は、平日午前 9:00～午後 17:00

社会医療法人社団 木下会
館山病院
〒294-0037
千葉県館山市長須賀 196
Tel.0470-22-1122(代) Fax.0470-22-2826
http://tateyama-hp.com/

人間ドック・健診センター
Tel.0470-23-5030　Fax.0470-23-5034
歯科センター
Tel.0470-25-3555
訪問看護ステーションたてやま
Tel.0470-24-7311　Fax.0470-24-7312
ヘルパーステーションたてやま
Tel.0470-24-7310　Fax.0470-24-7312
ケアプランセンターたてやま
Tel.0470-25-3477　Fax.0470-25-3488
リハビリテーションセンター
Tel.0470-22-1122(代)

館山市地域包括支援センターたてやま
Tel.0470-25-7191　Fax.0470-25-7192
指定通所リハビリテーションセンターたてやま
Tel.0470-30-8770　Fax.0470-30-8771
ばんぶーはうす（生活訓練施設）
〒294-0038　千葉県館山市上真倉 2383
Tel.0470-22-1712　Fax.0470-22-1718
指定特定相談支援事業所たてやま
〒294-0038　千葉県館山市上真倉 2383
Tel.0470-22-1712　Fax.0470-22-1718